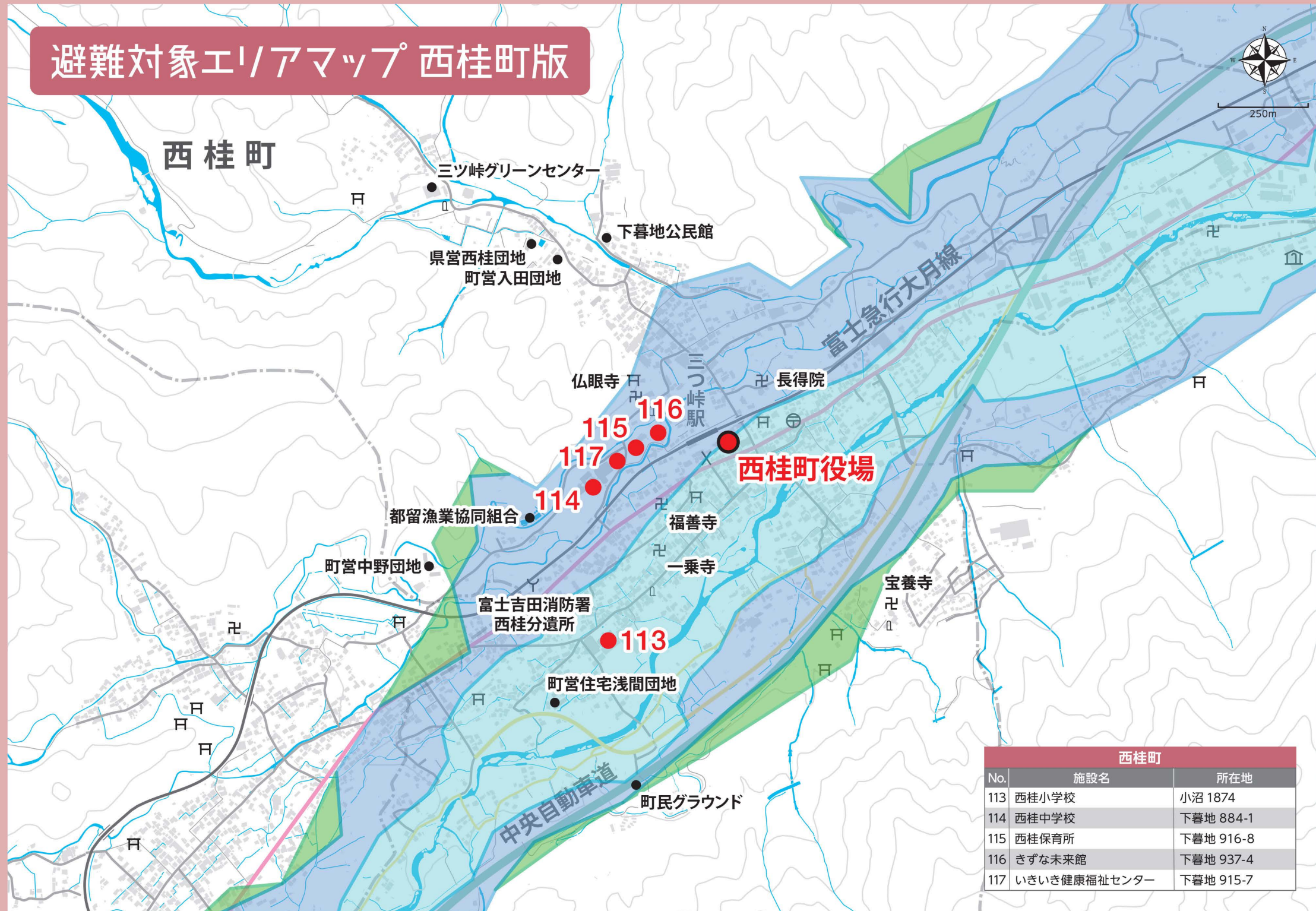
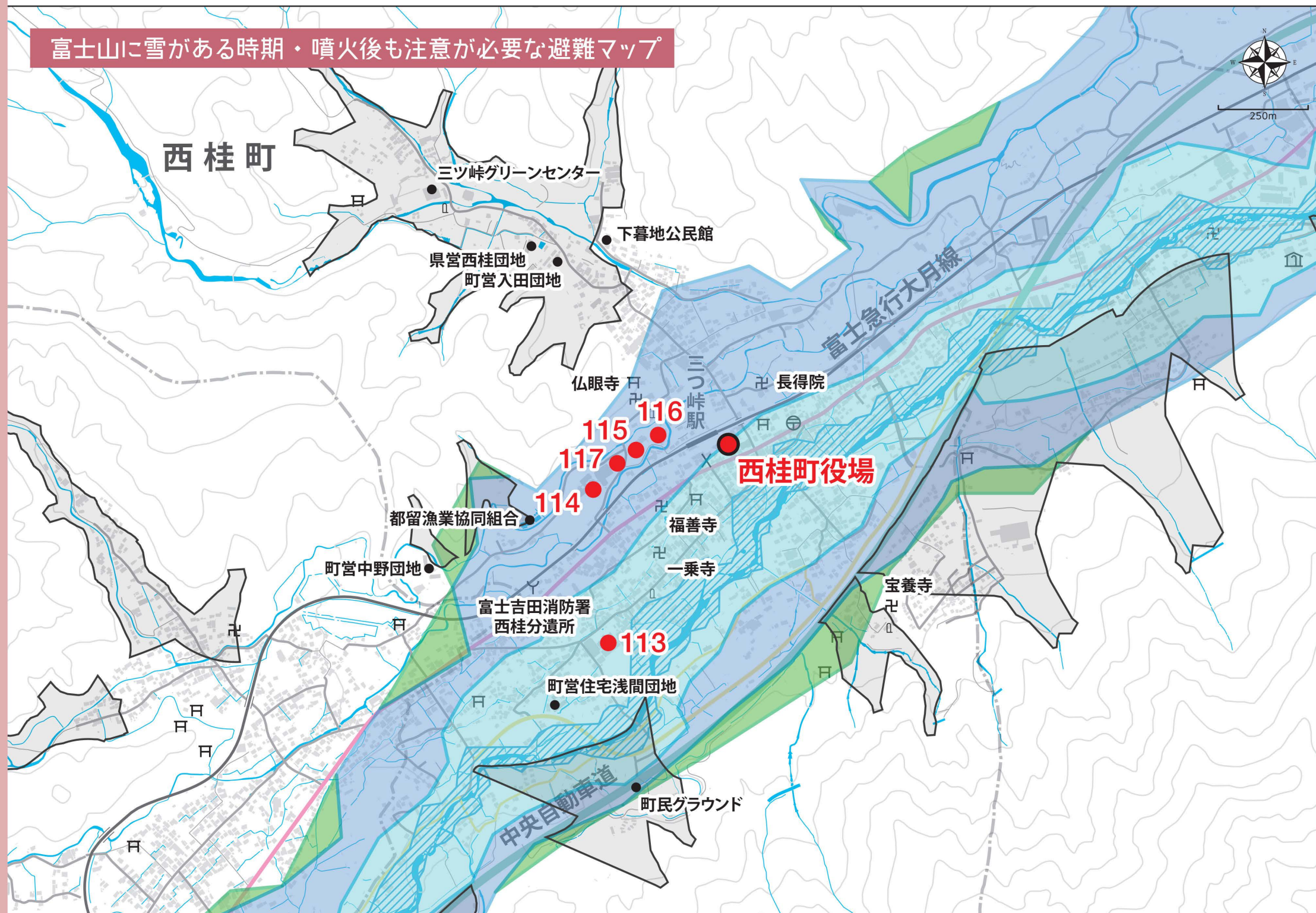


避難対象エリアマップ 西桂町版



富士山に雪がある時期・噴火後も注意が必要な避難マップ



避難対象エリア別 避難時期

避難対象 エリ ア	エリアの説明	避難時期	
		噴火前	噴火後
第 1 次避難対象 エリア	想定火口範囲	噴火警戒レベル 3 (一般住民、要支援者)	—
第 2 次避難対象 エリア	火砕流等、大きな噴石 の到達範囲	噴火警戒レベル 4 (一般住民、要支援者)	—
第 3 次避難対象 エリア	溶岩流 (3 時間以内) 到達範囲	噴火警戒レベル 4 (要支援者)	噴火直後に避難指示が 発令された地域 (一般住民)
第 4 次避難対象 エリア	溶岩流 (3 ～ 24 時間) 到達範囲	—	噴火後、溶岩流が流れ てくることが予測され、 避難指示が発令された 地域
第 5 次避難対象 エリア	溶岩流 (24 時間 ～ 7 日間) 到達範囲		
第 6 次避難対象 エリア	溶岩流 (7 日間 ～ 最大 57 日間) 到達範囲		

※噴火後の避難は、エリア内の全ての地域で避難が必要になるわけではありません。
お住まいの市町村の避難指示などにより、避難をしてください。

噴火警戒レベル

噴火警戒 レベ ル	火山活動の状況	住民等の行動	想定される現象等
5	居住地域に重大な被害を 及ぼす噴火が発生、切迫 している	危険な居住地域からの 避難等が必要	●噴石、火砕流、溶岩流が居住 地域に到達 ●顕著な群発地震、地殻変動 の加速等、大規模噴火が切迫
4	居住地域に重大な被害を 及ぼす噴火が発生すると 予想される (可能性が高 まっている)	警戒が必要な居住地域での 住民・高齢者等要配慮者の 避難、その他住民の避難の 準備等が必要	●小規模噴火の発生、地震多発、 顕著な地殻変動等により、 居住地域に影響するような 噴火の発生が予想される
3	居住地域の近くまで重大 な影響を及ぼす噴火が 発生、または予想される	登山禁止・入山規制等 危険地域への立入規制等	●居住地域に影響しない程度 の噴火の発生。または地震、 微動の増加等、火山活動 の高まり
2	火口周辺に影響を及ぼす 噴火が発生、予想される	住民は通常の生活	●影響が火口周辺に限定 されるごく小規模な噴火 の発生等
1	火山活動は静穏	—	●火山活動は静穏

※富士山では噴火前に火口が特定できないため、火山活動が高まる段階では噴火警戒レベル 2
は発表されません。代わりに「火山の状況に関する解説情報 (臨時)」（気象庁発表）で必要な
対応を行っていきます。

※風水害等の「防災気象情報と警戒レベル」とは異なりますので、注意してください。

避難する際には

▶噴火しそうになったら

火砕流や大きな噴石は速度が速く、噴火してからでは避難が間に合いません。噴火前に避難が必要です。

▶溶岩流が流れてきたら

溶岩流は歩く程度の速さなので、流れてくる方向から直交方向に安全な場所まで避難しましょう。



溶岩流からの避難

▶富士山に雪があるときには

冬に噴火で火砕流や溶岩流が発生した場合、熱で雪が解け、融雪型火山泥流が発生することがあります。とけた雪が土砂や火砕物などを巻き込みながら高速 (時速 60km を超えることも) で流れ下るので、融雪型火山泥流の到達が予測される範囲では、噴火前の「噴火警戒レベル 4」で立ち退き避難が必要です。積雪量によっても異なりますので、各市町村による避難指示などの情報に注意してください。

…… 融雪型火山泥流の到達が予測される範囲

▶噴火が落ち着いてもー降灰後土石流

火山灰などが山の斜面に降り積もると、弱い雨でも土石流が発生します。噴火が終息した後も長期間にわたって発生するおそれがあります。

…… 降灰後土石流に特に警戒が必要な区域。特に 10 cm 以上の降灰があり、時間雨量 10mm を超える降雨があった場合には、降灰後土石流の危険性が高まりますので、漂流付近からはすぐに立ち退いてください。

測量法に基づく国土地理院長承認 (使用) R 5JHs 856

避難先～まずはお住まいの市町村避難所などへ～

- ①避難指示などにより、**各市町村内の避難所**へ避難してください。
- ②噴火の規模や避難所が不足する場合などには、近隣市町村へ避難します。さらに噴火状況など必要に応じて、県内他市町村や県外へ広域避難します。移動手段は行政が準備します。

自主的な分散避難の検討を!!

緊急時の避難に不安がある方などは、避難指示の前に親戚や友人宅など自分で決めた場所に避難する自主的な分散避難を検討しましょう。自主的な分散避難をする際には、噴火警戒レベル 3 まで行ってください。



火山灰に注意!!

▶健康への影響を防ぐために

火山灰はガラスの粉のようなもので、健康にさまざまな悪影響があります。

- 呼吸器系** 吸い込むとせきが増えたりするので、マスクで防ぎましょう。ぜんそくなど基礎疾患がある人は症状がひどくなるので特に注意しましょう。
- 目** 炎症など目の痛みが起きますので、目に入ったらこすらず、水で流しましょう。コンタクトレンズの方は目を傷つけるので、メガネをかけましょう。
- 皮膚** 皮膚に触れると炎症などを起こし、痛みやはれたりする方もいます。長袖や長ズボンを着用するなど、身を守りましょう。

▶降灰からの避難ー自宅や近くの堅固な建物など屋内に避難

大規模な降灰や溶岩流が自宅の地区に流れてくるなどの緊急事態では、市町村の避難指示など情報に注意して、避難所などへ避難してください。

避難所などへ避難するときは、ヘルメット・ゴーグル・マスクなどを着用して、徒歩で避難してください。車はわずかな降灰でも視界が悪くなり、スリップしやすくなるなど、事故が起こりやすくなり大変危険です。

▶屋内避難に備えて

7 日分の備蓄を準備しておきましょう。食料、水 (飲料水の目安：1 人 1 日 3 ℓ、ほかに生活用水も必要)、ヘルメット、ゴーグル、マスク、手袋・軍手、燃料・ライター、洗面用具、ウエットティッシュ、携帯トイレ、常備薬 など



降り積もった重みによる倒壊などに注意してください。木造家屋の場合 45cm 以上積もると、さらに雨が降った場合には 30cm で倒壊するおそれがあります。30cm 以上積もってなくても、家屋に「ゆがみ」や「さしみ」があり、不安を感じる方は避難所や近くの鉄筋コンクリート造などの堅固な建物に避難してください。



家族などで話し合いをしておきましょう!

噴火はいつ起こるか分かりません。家族などが別々の場所にいるときに起こることもあります。落ち合う場所などを話し合っておきましょう。

また災害時には携帯電話が使えないことも予想されますので、家族や親戚、かかりつけ医など必要な連絡先のメモなどを持ち歩きましょう。



家族などの集合場所

自主的な分散避難場所